51th
東京城東ロータリークラブ週報
国際ロータリー第2580地区

2017.　5.　22　　第2384回例会

感謝の心で 奉仕と親睦を

東京城東ロータリークラブ会長　細谷　貞治

例会日　毎週月曜日　12:30 ～ 13:30
例会場　〒 130-0013　墨田区錦糸1-2-2　TEL 5611-5511
東武ホテルレバント東京
事務局　〒 130-0013　墨田区錦糸1-1-5
TEL 5637-4605　FAX 5637-4611
事務局　天尾　文（伊藤）
E-mail　jyoto@club.email.ne.jp

会　長　細谷貞治　副会長　阿部　豊
幹　事　兒玉正行　副幹事　江波戸健治
会報委員長　池永憲明

ＲＩ会長
ジョン F. ジャーム
第2580地区ガバナー
上 山 昭 治
第2580地区幹事
田 中 永 二
ガバナー補佐：鈴木秀史
(東分区担当)
東分区幹事　：瀧澤一郎
東分区副幹事：鈴木正名

人類に
奉仕する
ロータリー

本日の卓話

「旅するアコーディオニスト」

アコーディオン演奏
田ノ岡 三郎　氏

2017/5/15（月）
『ローターアクトとは
～48年の軌跡と未来への一歩～』
地区ローターアクト代表
白倉泰斗氏

ニコニコボックス

◎10/30 の IM のお知らせに伺いました。多くの皆様方のご出席をお待ち致しております。
次年度東分区 IM 実行委員長　田口典彦様
◎本日はローターアクトにお時間を頂きありがとうございます。東京池袋西 RC 平井憲太郎様
○白倉様、本日の卓話よろしくお願い致します。
兒玉正行君・阿部　豊君・江波戸健治君
○5/8 より入会させて頂きました。皆様どうぞよろしくお願い致します。　梅野勝義君
○お祝いを頂いて。　重田敦史君

小計￥28,000.-　累計￥2,226,000.-

2017年5月15日 例会報告

点　鐘
ロータリーソング　『我等の生業』
ゲストスピーカー　2名
ゲスト及びビジター　2名
会員出席状況　49名中39名(出席率79.59%)
前々回訂正出席率　100%

- 5月の受付当番 -

阿部君/池永君/伊藤(裕)君/今井君/宇都宮君

次回の卓話

「イニシエーションスピーチ」

鈴村 篤史 会員
岸田 康宏 会員

内容充実の為に、皆様からの投稿をお待ちしております！

▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽

ＲＩニュース：2017.3.27

▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△

スラムから抜け出すための柔の道。若者達はリオデジャネイロの貧困街でオリンピックを夢見る。

16 才～ 21 才の若者 34 人がマットの上で輪になって座っています。皆、はじめは引っ込み思案でも、柔道に対して少しずつ心を開いていきます。

リオデジャネイロのスラム街、モロダマンゲイラに住むルーカス・フェレイラさんは次のように話します。「柔道を始める前、8 歳の私は当てもなく通りをうろつき、ひどい仲間とつきあっていました」彼はいま 20 歳。結婚もしています。

10 歳で柔道に出会ったルナン・アルベスさん（現在 19 歳）は、はにかみながら早口で話します。「子どものころ、将来は麻薬密売人になりたいという恐ろしい考えをもっていました。でも柔道が別のドアを開いてくれたんです。柔道は、よき市民として、ブラジルのために闘う道を教えてくれました」リオデジャネイロのロータリークラブから支援を受けているこの柔道チームには、周囲のスラム街からやって来た若者 300 名がおり、フェレイラさんとアルベスさんも同様です。コーチをしているジョアン・ルイス・ミランダさん（Rio de Janeiro-Rio Comprido ロータリークラブ会員）は、助手の力を借りながらチームを組織するために奮闘しています。若者たちにとって、チームでの経験は、暴力と犯罪の日々から抜け出す道を提示するものです。

以前リオデジャネイロで警察官をしていたというミランダさんは、1998 年に子どもたちの支援プログラムに参加しました。しかし、彼は挫折。「子どもたちの状況は結局、元に戻ってしまい、プログラムは助けにならないと感じました」翌年彼は、警察でスポーツプログラムを設置することを上司に提案。練習生わずか 3 名で始まったプログラムは、その後急速に発展しました。今日、チームはサッカーのクラブ施設で練習し、3 ～ 13 歳のちびっ子メンバーは近くの教会で練習しています。

ビトリア・ピニェイロさんは、2020 年のオリンピックを目指して毎日練習しています。彼女にとって柔道は、負のエネルギーからポジティブな目標へと目線を変える助けになるものです。そんな彼女は、インターアクトクラブの会員でもあります。自分は誰の言うことも聞かない反抗的な若者だったと語るピニェイロさん。前回のブラジル柔道選手権で 3 位となり、もっと上を目指すことを決意しました。

コーチのミランダさんは、リオの悪名高いスラム街で育った柔道金メダリスト、ラファエラ・シルバが、すべてが可能であることをチームに教えてくれたと話します。

この柔道チームは二度も州選手権を勝ち取り、国内屈指の実力を誇ります。世界選手権で優勝したこともあり、昨年は 5 人の選手がブラジリアでの選手権で、金、銀、銅のメダルを勝ち取りました。

チームとして常に成功の道のりを歩んできたわけではないと、警察官を引退し、ボランティアで柔道を教えてきたミランダさんは話します。「6 年前までは最高でも 15 位だったんです。選手もトレーナーも優秀ではありました。でも子供達は、空腹で気を失っても不思議じゃないような状態だったのです」その後、ロータリークラブの支援によって選手たちのパフォーマンスは変わりました。クラブは地元の食糧バンクと協力し、食べ物を毎月、メンバーとその家族に提供しました。

チームの誰もがプロのアスリートを目指しているわけではありません。ジャーナリズムや海洋生物学分野での仕事を考えている人もいます。子子供達から「教授」と呼ばれているジョアン・ルイス・ミランダさんは、子供達に将来のためのガイダンスを示してきました。

「みんな貧困地域に住んでおり、一人ひとり丁寧にサポートしながら地域社会を改善することが大切。私たちの目標は、犯罪以外の選択肢を子供達に示すことです」

柔道プログラムへの参加は無料。しかし、プログラムに残るための要件があります。それは学校に通い、よい成績を取り、家族、友達、同級生、そしてチームメンバーを尊重することです。

「先生がどれほど私たちの力になっているか、先生たちには分かってないかもしれません。私は心の底から言いたいことがあります。それは、私たちは本当のファミリーだということです」